

闘春 2013



新年にあたり、組合員・ご家族の皆さんにご挨拶を申し上げます。

2013年も「激動の年」が続く様相です。世界経済は不況から抜け出せず、財政・金融危機は深刻さを増しており、「世界恐慌」の淵からは逃れたものの世界経済は減速しています。他方では、大国による「新帝国主義」が跋扈し、資源獲得や領土問題など紛争が勃発しています。

日本社会は重要な岐路に立っています。経済政策、雇用対策、原発・エネルギー政策、消費税増税・社会保障、TPP、外交・安全保障、憲法問題など、国民の生命と財産を大きく左右する重要課題が山積しています。

12月16日の衆議院選挙は、自民党が過半数を大きく上回る「圧勝」という結果になりました。一方、民主党は公約違反の消費税増税や民意に反した大飯原発再稼働の強行など、批判が集中し壊滅的な敗北となりました。

自民党と日本維新の会を合わせて348議席という勢力は衆議院の72%にのぼり、「改憲」の必要条件である議会の3分の2を上回ります。自民党は政権公約で改憲を念頭に国防軍の創設を明記しています。維新の会は自主憲法の制定と集団的自衛権の行使容認を盛り込んでおり、タカ派色を強めるという極めて危険な勢力と言わざるを得ません。私たちは、今こそ「憲法九条」を死守する闘いを構築しなければなりません。

大震災による避難生活者や原発事故による放射能被害に苦しむ人々が大勢います。また、失業者や貧困生活者、非正規労働者は悲鳴をあげています。不自由な生活を余儀なくされている被災者や社会的弱者に「寄り添う政治」が求められています。

私たちは、生命と環境を守り、子どもたちが安心して暮らせる社会を創造するために奮闘し、運動を大きく前進させましょう。組織破壊攻撃や政治的弾圧を許さず、労働組合の団結権を守り、安全で働きがいのある職場の実現！人権・平和・民主主義の確立！そして、えん罪の撲滅、公正・公平な社会を実現するために奮闘しましょう！



JR総連・執行委員長

武井政治

JR総連各単組委員長

2013年頭所感 II

職場を原点に労働組合らしく前進しよう！

北海道旅客鉄道労働組合

中央執行委員長 鎌田 寛司



新年あけましておめでとう
ございます。一昨年の3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原発事故は、私たち人間に対し価値観の転換を促しました。歴史に学んでいけば、あれほどの沿岸部被害は出なかったのです。「安全神話」に騙されなければ、原発はこの日本社会に存在しなかったのです。今もなお放射能物質は放出され続け、生きとし生けるものすべての営みが否定されかねない状況です。私たちは、絶対安全が担保されない原発とその再稼働に反対します。それが、子どもたちの未来に、責任を持つことであり「福島の痛み」を分かち合う真の姿だと考えるからです。

また、第46回衆議院議員選挙は、民主党惨敗で幕を閉じました。政権公約を反古にし、社会保障の道筋が見えない大増税や多くの反対の声を無視してTPP参加を表明しました。自民党政権は、「国防軍」「改憲」など数の理論で暴走することは明白であり、警鐘をならさなければなりません。

安全よりも運行・営利優先するがゆえの事故は、企業の組織事故です。発生する事故には直接的な原因と背後要因があります。安全を形骸化する要素を徹底的に排除し「命と安全をすべてに優先する」ことを基本に、一切の妥協を排して安全の再確立に向けて運動を進めているところです。労働条件の向上も大きな課題です。2013年春闘においてさらに多くの成果をかちとるために、ともに奮闘しようではありませんか。

「憲法9条」改悪にNO!!

東日本旅客鉄道労働組合

中央執行委員長 千葉 勝也



JR総連の仲間の皆さん、明けましておめでとうござい
ます。

今年も、JR東労組は皆さんと共に厳しい現実を突破するために、最先頭でたたかう決意を申し上げます。昨年末の衆議院議員選挙は、自民党の圧倒的な勝利で終わりました。早速、自民党安倍総裁は「憲法9条」改悪を焦点にした改憲を企み、まずは改憲の発議要件緩和をめざして憲法96条改定を目指す考えを示しています。自衛隊の「国防軍」規定、原発の再稼働そして日本の核武装化へと、大きく舵を切ろうとしています。私たちは、このような動きにNOを突きつけ、平和を守るすべての皆さんとともに、参議院選挙を展望してたたかっていきます。

昨年は、「えん罪・JR浦和電車区事件」から10年の年でした。刑事裁判では、不当にも有罪判決が確定しましたが、美世志会6名に対する懲戒解雇処分無効を求めた民事裁判で、八ツ田・小黒両君の解雇は無効であるとの判決を引き出しました。美世志会7名の不屈なたたかいの成果であると共に、多くのみなさまの10年の永きに亘ってのご支援の賜です。心から感謝申し上げます。舞台は、控訴審へと移りますが、今回の一部勝利判決を橋頭堡に完全勝利に向けてさらに取り組んでいきます。

さらに東日本大震災の復興、とりわけ不通線区の鉄路での復旧、災害に強い鉄道づくり、脱原発など山積する課題に組織一丸となり取り組んでいきます。

職場からの闘いで美世志会の解雇無効を勝ち取ろう！

JR東海労働組合

中央執行委員長 淵上 利和



新年明けましておめでとう
ございます。昨年10月17日、東京地裁は浦和電車区事件の地位確認裁判で八ツ田さんと小黒君に対し解雇無効の判決を下しました。2002年11月の浦和電車区事件以降、2003年東京駅事件、05、07年業務上横領事件、蒲郡駅事件、2006年には24週に亘る週刊現代記事もありました。まさに国策弾圧におけるJR総連への組織破壊攻撃において、2名の解雇無効を勝ち取ったことは画期的な勝利判決であり極めて大きな闘いの成果です。この根拠は、JR東労組・JR総連が、えん罪を許さない連帯の闘いを広く大きく社会的に創りだしたからであり、同時に会社による労働組合への弾圧を許さず浦和電車区分会をはじめ職場から闘いが献身的に創りだされてきたからに他なりません。私たちは田城参議院選を勝利し、JR総連の組織の強化と団結を持って組織破壊攻撃を跳ね返してきました。そして美世志会全員の解雇無効を勝ち取らなければなりません。松崎さんが亡くなられて2年が過ぎました。「D型もD民同へ洩れ谷に」は、私たちに実践的課題として何を問うているのでしょうか。私たちは、松崎さんが創り強化してきた労働運動の質を継承発展させることを誓い合いました。それは松崎さんの偉大さを過去のものとして博物館に展示するのではなく今に生かしていくことです。東海労は少数ではありませんが、その実践者として奮闘していきます。

職場から地域から労働者民衆と連帯して闘います！

JR西日本労働組合

中央執行委員長 田村 豊



新年のご挨拶を申し上げます。昨年末の衆議院選挙で、民主党の大敗北により「憲法改正」と集団的自衛権行使を標榜する自民党政権が誕生しました。労働者や民衆の幸せより権力者や大企業の利益重視の社会へ急加速していくことが予想されます。

東日本大震災と福島第一原発事故によりいまだに32万人を超える人々が避難を余儀なくされています。就職できない若者や首切りに喘ぐ労働者、いじめにより自殺に追い込まれる子供たち、一人寂しく亡くなる老人。今こそ、政治がしっかりしなくてはならない時に、戦後最低の投票率で最悪の選択をした有権者。今年こそ、労働組合の真価が問われる年はないと思います。

昨年は、JR福知山線脱線事故で、業務上過失致死傷罪で強制起訴されたJR西日本の歴代三社長の裁判公判で、ご遺族の皆さんが「日勤教育」や不安な企業体質について厳しく被告人質問され、私たちは、毎月の安全行動で裁判の内容を街頭ビラ配布で社会的に明らかにしてきました。また、線路作業者の生命と安全を守るために、赤色旗裁判も立ち上げました。そして、職場からの安全闘争を積み重ね、二名の仲間が新たにJR西労に加入しました。

私たちは、2013JR春闘勝利！不安な企業体質一新！地方ローカル線存続！組織破壊攻撃粉碎！オスプレイ配備・低空飛行訓練反対！反原発！反戦・平和！を掲げ、職場から地域からあらゆる人々と連帯して闘っていきます。

社会変革の闘いを職場から担おう！！

日本貨物鉄道労働組合

中央執行委員長 相澤 武志



JR総連に結集する組合員の皆さん、新年明けましておめでとございます。

年末の衆議院議員選挙は、旧態然とした官僚指導の極右政治を想定させます。政権と党であつた民主党の失策と裏切り、戦後最低の投票率とはいえ自公・維新などを支持した有権者の愚かさ、そして民意を意図的に誘導したマスコミの姿勢を私たちは決して忘れてはなりません。

だからこそ私たちは、立ち止まるわけにはいきません。今ほど組織された労働者の更なる団結の強化と連帯が求められている時はありません。震災復興、災害に強い鉄道の復権、脱原発、反増税、反弾圧、そして憲法9条を守る闘いなど、私たちがやるべき課題は山積しています。未来ある子供たちが平和で安全で安心して暮らせる社会を創造するのは、現実を生きる私たち『大人』の責任です。

私たちJR貨物労組は、JR総連に結集する一員として社会変革の闘いの一翼を職場・地域から断固担います。また、私たちがとつて今年には鉄道貨物輸送の将来を決する重要な年となります。組合員の職場と仕事と生活を守るために、組合員の英知を結集して昨年策定した『組合版ロードマップ』の具体的な実現をめざし職場から闘い創造します。

私たちは昨年組合結成25年を迎えました。組織率75%も実現しました。今年には新たな25年に向けた第一歩となります。先輩たちの苦闘を我がものとして、職場から愚直に闘いを推し進めます。今年もよろしく願います。

働きやすく生きがいを感じられる職場の構築を

鉄道総合技術研究所労働組合

執行委員長 瀧上 唯夫



新年明けましておめでとうございます。

昨年、労働者・組合運動を取り巻く環境は厳しくなるばかりですが、鉄研労では執行委員と組合員との直接対話を通じてその距離を近づけ、生の声を会社に届ける取り組みを進めており、昨年は新たに「資格取得報酬金制度の創設」「子の看護休暇取得資格の拡大」「育児休暇期間変更要件の緩和」などの成果を得ることができました。

一方で、一昨年の東日本大震災に続き、昨年は大水害が発生するなど、引き続き鉄道が自然の脅威にさらされ、鉄研労組合員もその現地調査や復旧支援などに奮闘した結果、過重労働が引き起こされた事例も発生しました。鉄道の役に立つ成果を上げられることは、研究所に働く職員として非常にやりがいを感じられる反面、組合としては過負荷の状態が慢性化しないように監視していく必要があります。今年も業務負荷軽減を重要な課題と考え、取り組みを進めていきます。そのほか、世の中では「2013年問題」が取りざたされていますが、鉄道総研では55歳が標準的な退職年齢とする考えが根強く残っており、そもそもこの問題が発生する60歳を待たずに退職する組合員も多く、改善を求める声が多いことから、解決に向けて努力していきます。

鉄研労は組合員の声を尊重し、働きやすい、生きがいを感じられる職場の構築をめざした活動を進めていきます。今年も皆さまのご支援をよろしく願います。

将来の発展に向けた取り組み

鉄道情報システム労働組合

執行委員長 加藤 透



新年のご挨拶を申し上げます。東日本大震災から2年近く経ちましたが、未だに被災地の復興の目途が立たない状況が続いています。また、福島第一原発事故による放射能汚染で、原発周辺の住民が苦しみ続ける中、日本のエネルギー政策は机上の議論ばかりが先行し、その方向性は定まっていません。被災地が一日も早く復興し、被災者の方々が元の生活に戻れることを、切に願うばかりです。

世間では、為替相場好転・株価上昇といった明るい話を耳にする機会が増えました。しかしながら、消費税増税、社会福祉関連の負担増に加え、会社からはより一層のコスト削減が求められるなど組合員の負担は増す一方で、我々が景気回復を実感するには程遠いのが実情です。

また政治も混迷を極めていきます。12・16総選挙での民主党の惨敗、自民党の政権復帰、第三極の躍進といった転換点を経て、今後この国がどういった方向へ舵を切るのか、慎重に見極める必要があります。システム労は、組合員のワークライフ・バランスを実現するための活動として、超勤削減の取り組みを継続して行います。また、組合員が将来にわたって夢を持って働ける職場であり続けるために、組合員にとって意義のある長期ビジョンを作り上げるための提言を会社に対して行う活動を進めます。

今後もシステム労は、組合員の雇用確保、労働条件の維持・向上のため、JR総連に結集する仲間と連帯して活動します。本年もよろしくお願いいたします。

目的は「組合員の生活の向上」

ソフトバンクテレコム労働組合

執行委員長 中島 順也



謹んで新春のご挨拶を申し上げます。新年を迎えるにあたり、まず先の東日本大震災により被災した皆様、また復興のため日々ご尽力されている皆様に敬意を表し、心よりお見舞いを申し上げます。

2012年、ソフトバンクテレコムにとって「クラウド」「モバイル」「スマートデバイス」を活用しワークスタイル変革を推し進める1年でした。その中で、私共ソフトバンクテレコム労働組合は、ソフトバンクグループ通信4社における唯一の労働組合として、その存在意義を見つめ直す年でもありました。

全国の組合員の声を集め、一つでも多くの課題を解決したい。日々活力をもって働ける会社になりたい。そのため、何を成すべきか。私の好きなイチローの言葉に次の一文があります。

「小さなことを積み重ねることが、とんでもないところに行けるただ一つの道」

会社からは見えない現場の「生の声」を、一つでも多く集め、組合という組織を通じて、会社側へ一つづつぶつけていく。地道でも着実な活動が大きな実を結ぶものと信じ、活動していく所存です。

今年も引き続き「組合員の生活の向上」を実現すべく、「見える組合活動」を通じたワンチームでの活発な組合活動を実施してまいります。

本年もソフトバンクテレコム労働組合をよろしくお願ひ申し上げます。

出合いを大切に

水上ホテル聚楽労働組合

執行委員長 会津 正人



新年明けましておめでとうございませう。昨年は、力強い一歩を踏み出そうと、執行部が中心となり、全組合員で今できることを確実に実行してきました。職場環境の改善、食材、施設の安全対策、廃棄物、衛生の学習会、商品の改善、地域の人達との交流などです。いろんな所で、沢山の人の出合いが聚楽労組を育てて頂いたと思っています。人との出合いは大切だと思います。いろんな事を学ぶことが出来ます。これからも感謝の気持ちを忘れずに、客観的視点を持って、元気を勇氣に変え、やる気を持って前進して行きます。本年も宜しくお願い致します。



脱原発社会の実現に向けて 全国を全力で駆け抜けます!



明けましておめでとうございます。JR総連の組合員の皆さんには、全国各地でお会いする度に、暖かいご支援・ご声援をいただいていることに、心より感謝申し上げます。

自民党を政権の座に再び戻してしまいました。わが民主党は、3年3ヶ月の間、国民の皆さん、組合員の皆さんの期待に応えることはできませんでした。年の瀬の総選挙での大敗は、消費税増税という約束違反とそれを巡る党内の混乱に明け暮れる姿を見て、「これは頼りにならない政党だ」という判断を、国民の皆さんが下した結果だと思えます。

もちろん、1年生議員といえども私にもその責任の一端があることは間違いありません。私は、これまで民主党内で「日本に自民党は2ついらぬ! 民主党はリベラルの旗手であるべきだ!!」と主張してきました。民主党は政権交代の期待を裏切ったことを真摯に猛省し、リベラル・平和主義を求め、世論にしっかりと応え原点に立ち戻る必要があります。そして、その方向性に基づいた党の綱領をつくり、諸政策を決めていくことが重要です。そういうプロセスを踏むことで自ずと働く者・生活者、弱い者の立場に立った政策が作られていくはず。このような地道な議論の積み重ねの先にか、民主党が国民党として再生していく道はありません。私はこう

した立場で党内改革を進める決意です。

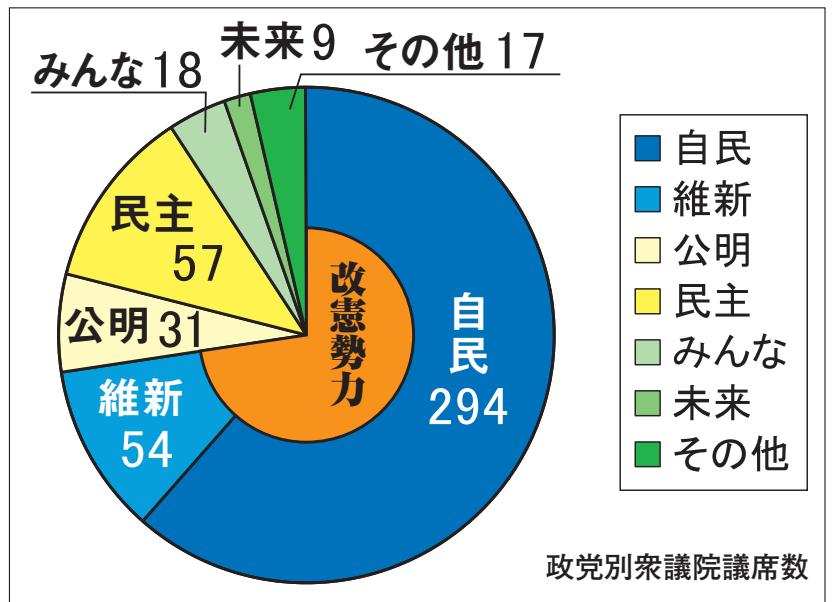
一方、自民党・安部政権に対峙する政党の国会議員として、私の最大の課題は、やはり新政権の「憲法を改正し、国防軍を創設する」という公約をなんとしても許さないことです。また、原発推進政党である自民党が政権に復帰した為、脱原発社会の実現は危機的状況となっています。しかし、脱原発社会の実現を断念させられる訳にはいきません。なぜなら、福島原発と同様の事故がもう一度起きたら、正に日本の未来は絶望せざるを得なくなるからです。安全基準を厳格に適用すれば、再稼働はもとより日本で原発を建設すること自体、かなり無理があったのではないのでしょうか。原子力規制委員会が、原発直下に活断層がある可能性が高いことから、敦賀原発と東通原発に対し廃炉の方向性を出していましたが、自民党政権によってその方向性が曲げられるようなことがあつてはなりません。民主党は、世論の6割から8割におよぶ「脱原発」社会を希求する民意をしっかりと受け止め、実現する政党にならなければなりません。

今年もすべての組合員の皆さんと連携し、平和・人権・民主主義を守るため全国を全力で駆け抜けます!

参議院議員

田城郁

改憲勢力72%超!! 憲法9条を守れ!



東日本大震災後、初めての国政選挙となった第46回衆議院議員選挙は、12月16日投票・即日開票が行われた。結果、自民党が294議席を獲得し単独過半数を確保した。公明党は「改憲」に対して慎重な態度とはいえるが、「改憲」に対して積極的な日本維新の会と合わせればその議席数は348となり、「改憲」に向けた法案を可決することのできる3分の2(320議席)を超えている。

今回の政権交代において私たちが注目しなくてはならないことは、安倍晋三自民党総裁がこの間遊説などで力説している「改憲」や「集団的自衛権の行使」「国防軍の設立」に見られる「戦争」のできる国づくりである。ナショナリズムを煽る日本維新の会なども合わせれば、「改憲勢力」の力は壮大なものとなってしまった。当面は、改憲の是非を問う「国民投票」の発議の要件を満たす「衆参両院で3分の2」という条項を「過半数」へと引き下げることすら明らかになっている。今回の自民党圧勝によって、確実に「改憲」に向け

平和・人権・民主主義を守ろう!!



た動きが急ピッチに進むことになる。

私たちJR総連は、平和・人権・民主主義を守るたたいを取り組んできた。これらのたたいに對して、強い逆風となることは間違いない。しかし私たちは臆することなく「憲法9条を守る」勢力の結集を目指さなくてはならない。連合に結集する仲間をはじめとして、国際連帯をも拡大させて平和・人権・民主主義を守るたたいを継続・発展させていく必要がある。

「脱原発」はいずこへ… 民意と大きな隔たり!



事故直後の福島第一原発

衆議院選

挙公示日の12月4日、原発被災地の福島に主要政党の党首が集まり「福島・被災地の復興」を訴える衆議院選挙はスタートした。福島第一原発事故を契機に、今後の原発政策が問われた重要な選挙となるはずだった。しかし

かし現実には有権者の4割が棄権をし、自民党が政権を取り返した。2030年までに「原発ゼロ」を求めたパブリックコメント8割の民意からすれば、今回の選挙結果は大きな乖離となった。

また小選挙区制の中で、「脱・卒原発」を掲げる政党が多く候補者を確立したことで、結果的に反対票が分散し自民の大勝の引き金となったといえる。

「脱・卒原発」を訴えた多くの候補者は、手応えを感じたものの落選を余儀なくされた。

私たちが求めたものは、目の前の「安心できる生活」の場、被災地から避難している人たちにとっては、帰る「故郷」やしつかりとした「保障」である。

そして、原発に頼らない社会＝脱原発社会を求

めているのだ。

しかし、自民党の「重点政策」は、「安全第一の原則の下、専門的判断をもって再稼働を順次判断し、3年以内に結論を出す」としている。「安全」を対置しているものの、「稼働」を優先し経済政策を優先させようとしているのだ。そこには「民意」の欠片もないし、「避難生活者」への配慮も誠意もない。

私たちは、今後も脱原発1000万人アクションなど、「脱原発」を訴えるすべての仲間と連帯した取り組みを展開していく。次期、参議院議員選挙や衆議院議員選挙において、真の「民意」を反映させるために立ち上がろう!



避難所で放射線測定を受ける人たち

子どもたちの未来のために
脱原発のたたかいを現場・地域から
つくりだそう!



「震災復興をめざし釜石線遠野駅付近を走るSL釜石号」 JR東労組盛岡新幹線運輸区分会 中村 佳児 撮影

迎春

鉄道ファミリーは組合と共に歩み
組合をしっかりとサポートします

- ▶がん保険・医療保険・介護保険
- ▶自動車保険・サークル保険・ゴルフ保険
- ▶JR積立年金・健康食品・組合旗・組合バッヂ等

今年もよろしくお祈りします



JR総連・各単組賛助団体
(株)鉄道ファミリー

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13
電話 JR 058-4114・5 NTT 03-3490-3862
健康食品部 直通 03-3493-0289